



# JAMES Newsletter

No. 151

May 17th, 2026

---

## 目次

---

1. 巻頭リレーエッセイ 「小さな“悟り”」
2. 東日本地区、及び、中部地区研究例会 活動報告
  - ◆第 108 回 東日本地区研究例会（2026 年 3 月 15 日開催）活動報告
  - ◆第 81 回 中部地区研究例会（2026 年 3 月 15 日開催）活動報告
3. 研究分科会 活動報告および開催予定
  - ◆メディア英語談話分析研究分科会
    - 第 86 回メディア英語談話分析研究分科会（2025 年 12 月 6 日開催）のご報告
    - 第 87 回メディア英語談話分析研究分科会（2026 年 2 月 21 日）のご報告
  - ◆新語・語法研究分科会
    - 第 169 回新語・語法研究分科会（2026 年 2 月 14 日開催）のご報告
    - 第 170 回新語・語法研究分科会（2026 年 7 月 4 日開催）のご案内
  - ◆英語教育・メディア研究分科会
    - 第 24 回英語教育・メディア研究分科会（2026 年 3 月 15 日）のご報告
    - 第 25 回英語教育・メディア研究分科会（2026 年 4 月 18 日）のご報告
    - 第 26 回英語教育・メディア研究分科会（2026 年 5 月 23 日）のご案内
4. 会員エッセイ 「英検 1 級二次試験の初受検記」
5. 編集後記
6. 2026 年度新刊テキスト、及び商品・紹介（賛助会員 50 音順）
  - 1) 金星堂
  - 2) 三修社
  - 3) 成美堂
  - 4) 語学学習支援システム CaLabo® EX.（チエル株式会社）
  - 5) 日本経済新聞社の英文メディア「Nikkei Asia」

.....

# 1. 巻頭エッセイ

## 小さな“悟り”

石上 文正（人間環境大学）

私がひそかに「小さな“悟り”」と呼んでいるものがある。おそらくだれもが経験したことがあるようなことである。自転車に乗る練習をしていて、あるとき突然乗れるようになることである。大げさに言えば、自分の心身という複雑系が自転車という環境に上手に適合することである。それは、あるとき突然やってくる。別の言い方をすれば「コツ」をつかむ瞬間である。

この現象について AI に尋ねたところ、ダイナミック・システム理論 (Dynamic Systems Theory: DST) における相(そう)転移(てんい) (phase transition)、自己組織化的臨界瞬間 (self-organized critical moment) と呼ばれているものという回答を得た。前者は、突然に別の次元に移行するという意味であろう。自転車に乗れない自分と乗ることを阻む環境（自転車）の関係が、乗ることができる自分と乗ることを受け入れてくれる新しい関係に転移するからである。後者は、その現象が発現する瞬間を時間的に焦点化した術語であろう。

この瞬間を知的・認知的に経験し、それを見事に記述した人がいる、ヘレン・ケラー (*The Story of My Life*) である。彼女の家庭教師が、ヘレンの片方の手に水をかけ、別の手に「w-a-t-e-r」と書いて言葉を教えていた時、その瞬間が突然訪れたのである。彼女は、ことばというものの存在に気づき、彼女の世界が一変したようだ。

私も知的な意味での小さな“悟り”を経験したことがある。大学生になって間もない頃、レポート提出のため日本の政治に関する本（岩波新書）を読んでいたが、本の字面は読めるが、意味が分からなかった。しかし、時間をかけて何とか読み切ることができた。その後、新書レベルの本なら、簡単に読めるようになったという経験があった。この時、私に何が起きたのか分からなかったが、AI に尋ねたらこれも相転移であるという。

大学卒業後、アメリカの大学院で、文化人類学の勉強をしていたとき、言語人類学の担当教授からある言語哲学に関する本を読んで、レポートを提出するように求められた。その本について、英語を母語とする多くのクラスメートは、難しくて分からないと言っていたが、不思議なことに、外国人である私には、理解できた経験があった。この時、私は大学に入って間もない頃の日本政治に関する岩波新書を読んだときの苦労を思い出した。

外国語の本を読むとき、外国語の知識が必要であることは当然だが、それとともに本を読むという作業には、さまざまな知識、技術、経験、問題意識、もちろん言語能力などが複雑に混ざり合って、その総合的な操作結果が、「分かった」ということに導くと思われる。このとき、大学に入りたての頃の読書経験の意味を初めて理解できた。

渡米して間もない頃、ある書店で一冊の本に手を伸ばした。 *The social construction of reality* というタイトル名であった。さっそく購入したが、その本を事前に知っていたわけでも、著者の名前を知っていたわけでもなかった。そのタイトルを見て、「これだ!」と思った。私はそのタイトルを見て、自分の興味・関心が「いかに世界（現実）が造られているか」であることに気が

付いた。自分が何をしたいのかが分かったのである。私の学問人生が始まった、小さな“悟り”の瞬間であった。これを契機に同書との格闘がはじまった。なんとか少しは理解できるようになり、拙書 *Presidential Inaugural Addresses as Symbolic Universes: Comparing the Rhetoric of Former Presidents Barack Obama and Donald Trump* の中心テーマの一つとして論じることができるまでに、約 50 年かかってしまった。その小さな“悟り”は、私にとっては大きなものだったようだ。

石上会員の本：

「*Presidential Inaugural Addresses as Symbolic Universes: Comparing the Rhetoric of Former Presidents Barack Obama and Donald Trump (English Edition)* Kindle 版」

英語版 Fumimasa Ishigami (著, 翻訳), Sarah Colon (翻訳) 形式: Kindle 版

<https://www.amazon.co.jp/Presidential-Inaugural-Addresses-Symbolic-Universes-ebook/dp/B0CCMN44LW>

.....

## 2. 東日本地区研究例会、中部地区研究例会 活動報告

### ◆第 108 回 東日本地区研究例会

今回の東日本地区研究例会は、チエル株式会社様のご協力を頂き、2026 年 3 月 15 日（日）に無事に開催されました。各発表内容は、以下の通りです。

第 1 部：特別講演（14:05～15:05）

発表者：河原清志先生（拓殖大学・大学院教授）

発表題目：「敵をつくる言語、関係を残す言語——英語メディアによる紛争報道を〈相互ケア〉から読む」

内容：

講演では、英語メディアにおける語彙選択や主体の配置、評価表現（モダリティ）の違いによって、言語が「敵をつくる」のか、それとも対立の中でも「関係を残す」のかが変化することが論じられた。特に、ジョージ・W・ブッシュ元大統領による“Either you are with us, or you are with the terrorists.”という発言は、世界を「味方か敵か」の二項対立で捉える典型例として紹介された。これに対し、ジョー・バイデン大統領の“*We will compete vigorously, but we do not seek conflict.*”という表現は、競争を認めつつも対話や協働の可能性を残す「関係を残す言語」として対比された。

また、本講演の中心概念である〈相互ケア〉は、単なる感情的共感や合意ではなく、「評価を急いで固定化せず、他者への応答可能性を残す言語的態度」として定義された。講演では、批判的談話分析（Critical Discourse Analysis）の視点を踏まえながら、言説が権力や政治的正当化の装

置として機能すること、そして一方で、言語には対立の中にも関係性を維持する倫理的可能性があることが示された。

具体的分析としては、米国・イスラエルによるイラン攻撃報道を対象に、AP 通信、Al Jazeera、*Tehran Times*、*Mainichi Japan* など複数メディアの記事比較が行われた。また、日本・中国関係、ロシア・ウクライナ戦争、アメリカとベネズエラの関係、イスラエル・パレスチナ戦争など、多様な国際紛争報道が取り上げられ、メディアによって「敵」の描き方や関係性の残し方がどのように異なるかが検討された。

さらに、本研究は河原先生の博士論文（実践宗教学）を背景にしており、東洋哲学に基づく存在論・関係論を理論的基盤としている点にも特色がある。言葉と霊性（スピリチュアリティ）を「関係の中で生きる力」として捉え、紛争報道の言語に潜む倫理性を考察した点は、従来のメディア英語研究に新たな視座を与えるものであった。講演の締めくくりでは、「紛争報道の言語は敵をつくることもできるし、関係を残すこともできる。その違いは、語彙、主体配置、評価・モダリティ、そして霊性的態度に現れる」とまとめられ、言葉の選択が国際社会に与える影響の大きさが強調された。

（文責：吉原 学）

## 第2部：会員発表（15:25～16:25）

発表者：東海林康彦会員（フリーランス翻訳者）

発表題目：「近年の英語スラングの観察—分野や音声面の一考察」

内容：

発表では、近年英語圏で注目を集めているスラング表現を取り上げ、その社会的・文化的背景、使用される分野、および音声的特徴に着目して考察が行われた。まず、スラングの定義と特徴を確認し、スラングが単なる言葉遊びではなく、社会の価値観や時代精神を映し出す存在であることが示された。続いて、インターネット文化や SNS の影響、ジェンダーやアイデンティティに関する社会的議論、若者文化や音楽・ファッションの潮流などから生まれたスラングを例に挙げ、それぞれの語の意味と使用文脈が分析された。また、スラングに見られる音声的特徴にも注目し、語の短縮、リズムや韻を意識した構造、強勢の変化など、音の面白さや印象の強さが語の拡散に与える影響についても検討された。さらに、SNS 等を通じたスラングの拡散や認知度の変化、語の寿命といったダイナミクスにも注目し、スラングがどのように社会に浸透し、消費されていくのかが示された。最後に、スラングを通して見えてくる現代社会の価値観や言語変化の動態についての考察が示され、さらに、スラング研究が今後の英語教育において果たし得る可能性と課題についての展望が述べられた。

（文責：三田 弘美）

---

## ◆第81回 中部地区研究例会報告

中部地区では2026年3月15日、第81回研究例会をオンラインで開催しました。

今回は、新会員2名の先生方に、自己紹介も兼ねて、これまでの海外でのご経験や記者等ビジネスでの幅広い知見を踏まえ研究領域をご紹介いただくとともに、それぞれの専門に基づいたご発表をいただきました。また、井上彩会員には昨年が続いてご登壇いただき、研究デザインや分析視点の面でも、幅広い領域に示唆を与えるご発表をいただきました。

中村文人先生（愛知淑徳大学）には、「健康問題に関してのデジタル・リテラシーに内在する対立」と題してご発表いただきました。SNS を通じて健康情報に容易にアクセスできる一方で、その利便性が情報の信頼性を保証するわけではないこと、信頼できる情報源による検証の重要性が論じられました。

大門ゴーフ裕子先生（愛知淑徳大学）には、「From Sectarian Symbols to Viral Slogans: Media, Language and the Racialisation of Loyalist Siege Narratives in Northern Ireland」と題してご発表いただきました。北アイルランドにおけるロイヤリストの反移民感情を、右派ポピュリズムやナショナリズムの広がりに関連づけ、伝統的メディアおよびソーシャルメディアを通じて排他的言説が広がる過程が示されました。

井上彩先生（愛知県立芸術大学）には、「The effects of gender on variable use of creole features in English-based creoles」と題してご発表いただきました。ハワイ・クレオールにおける TMA マーカーの可変的使用に注目し、言語接触状況におけるジェンダーの影響について検討がなされました。

質疑応答では、メディア、言語、社会的文脈をめぐって活発な意見交換が行われました。中部地区では、コロナ禍以降オンラインでの研究例会を継続しています。今後も、新会員の皆様をはじめ、より多くの会員に気軽にご参加いただける研究交流の場として、研究例会を続けていきたいと考えています。

（中部地区長：宮原 淳）

.....

### 3. 研究分科会

Zoom での参加が可能な研究分科会もございます。初めての方も奮ってご参加ください。

#### メディア英語談話分析研究分科会

##### ◆ご報告

##### ・第 86 回メディア英語談話分析研究分科会

開催日：2025 年 12 月 6 日（土）

場所：オンライン

参加者数：8 名

発表者：野口知美会員（書面のみで発表）、井上みゆき会員

テーマ：Philip Seargeant 著 *The Art of Political Storytelling* 翻訳の読み合わせ

第 9 章（野口）、第 10 章（井上）

内容：

前回までに引き続き *The Art of Political Storytelling* の精読と翻訳を行った。とくに第 10 章は「フェイクニュース」に関する言及があった。本書の刊行は 2020 年であり、この言葉が普及し始めた頃であるが、現代において「フェイクニュース」をとらえる意義がどこにあるかを考える契機にもなった。

本書の輪読と試訳は第 86 回を以て一旦終えた。

・第 87 回メディア英語談話分析研究分科会（非公開）

開催日：2026 年 2 月 21 日（土）

場所：オンライン

参加者数：7 名

テーマ：今後の分科会活動についての討議

非公開によって今後の分科会活動についての討議を行った。これまでの Philip Seargeant 著 *The Art of Political Storytelling* の翻訳活動を踏まえた活動の進化とその展開について意見交換を行った。今後のアクションが明確になり、有用な意見交換になったと思われる。討議の内容上、詳細の記述は差し控えることをご容赦願いたい。

メディア英語談話分析研究分科会

代表 宮崎 康支

**新語・語法研究分科会**

◆ご報告

・第 169 回新語・語法研究分科会（2 月 14 日開催）のご報告

参加者数：11 名

場所：オンライン（Zoom）

内容：

新語フォーラムでは、田中満佐人会員、山内圭会員、三田弘美会員が、政治、金融、AI、社会、若者文化に関する新語の発表を行った。また、「若者のデジタルコミュニケーションにおけるピリオド使用の変化」について議論を行い、関連研究の調査結果を次回の研究分科会で報告することとなった。

研究発表は、山西敏博先生（秀明大学）による「国歌：外国と日本との相異」であった。発表では、各国国歌の文化的意義と、日本国歌「君が代」の歴史的背景および解釈について詳しい説明

がなされた。山西会員は、平安時代に成立した「君が代」の歌詞を古い大和言葉の観点から読み解き、恋文的な解釈を含む多様な可能性を示唆した。

Zoom の共同ホストを務めてくださった東海林康彦会員、ならびにご参加いただいた皆様のご協力により、活発な議論を滞りなく進めることができましたこと、心より感謝申し上げます。

(文責：三田 弘美)

#### ◆ご案内

##### ・第 170 回新語・語法研究分科会

日時：2026 年 7 月 4 日 (土) 14:15-16:00

場所：Zoom (ID およびパスワードは出席予定者に直前に通知)

1. 新語フォーラム (14:15-14:55)
2. 研究発表(15:05-15:45) 山内圭会員 (新見公立大学、日本ジョン・スタインベック協会 前会長)

「文学聖地巡礼の旅：ジョン・スタインベックの『チャーリーとの旅』と松尾芭蕉の『奥の細道』を比較して」

新語の発表をご希望の方は、7 月 1 日までに、参加ご希望の方は前日の 3 日までに、三田 <hiromitissot@yahoo.co.jp>までお知らせください。Zoom の URL をお知らせ致します。

(次回の研究分科会は 2026 年 11 月 14 日の予定)

新語・語法研究分科会  
代表 三田 弘美

#### 英語教育・メディア研究分科会

##### ◆ご報告

##### ・第 24 回英語教育・メディア研究分科会

開催日：2026 年 3 月 15 日 (日) 16:00~17:00

場所：チエル株式会社 チエルーム

参加者数：4 名

内容：これからの活動内容として、本分科会のプロジェクトとして 2020 年に出版された大学生用教科書『ニュース英語で 4 技能を鍛えるーインプットからアウトプットへー』(三修社)を題材として、執筆に携わった著者のねらいと実際に使用した教授者の所感を持ち寄り、新たな研究テーマの創出を試みることで合意した。

・第 25 回英語教育・メディア研究分科会

開催日：2026 年 4 月 18 日 14:00～15:45

場所：コミュニティふらっと東原 第 4 集会室

参加者数：7 名

内容：本分科会のプロジェクトとして 2020 年に出版された『ニュース英語で 4 技能を鍛えるーインプットからアウトプットへー』（三修社）について、執筆者の側から教科書の制作手順と同書の狙いと反省点が述べられ、同書を教科書として採用したことのある参加者からは掲載されている英文や設問に対する質問が寄せられた。また、教科書を使用する立場の学生からも、教科書の電子化のメリットや構成への意見が寄せられた。これを受けて、教科書の設問（Exercise）はどうあるべきかを検討することとし、次回は同書の Unit 1 の英文に対して Exercise を各自で作成して討議することとなった。

#### ◆ご案内

・第 26 回英語教育・メディア研究分科会

次回は 2026 年 5 月 23 日（土）14:00 より、コミュニティふらっと東原 第 3 集会室にて開催。

英語教育・メディア研究分科会

代表 原 功

<james.east.education@gmail.com>

---

#### ビジネス英語文化研究分科会

ビジネス英語文化研究分科会では、例会にてご発表いただける方を随時募集しています。発表は 30 分程度（質疑応答含む）で、ビジネス英語などの実務的なコミュニケーションを始め、英語圏におけるビジネス文化、グローバル時代の英語など、幅広くビジネス・英語・文化に関するものであれば何でも結構です。発表ご希望の方は、発表題目と要旨（200 字程度）を武藤（tmuto@kansai.ac.jp）までお送りください。

ビジネス英語文化研究分科会

代表 武藤 輝昭

.....

## 4. 寄稿エッセイ

### ◆英検 1 級二次試験の初受検記

藤本 時子（国際工科専門職大学）

三田弘美先生より題は自由と伺い、私にとってタイムリーな話題を綴ります。私は 2026 年 3 月に 9 年間奉職した私立高専を退職し、4 月から国際工科専門職大学に着任しました。その際、英語の資格を少しでも整えておこうと急遽、英検一次試験を受けました。対策本は持っていたものの、ろくに組み立てないままながら運良く合格し、2026 年 3 月に二次試験を受けることになりました。一次試験の合格発表は 2 月 16 日で、若い人の二次試験は 3 月 8 日ですが中高年世代は 3 月 1 日で、気づけば準備期間は 2 週間のみでした。転職に伴う準備も重なり、英検対策に十分時間を割くことができず、二次も最低限の準備で本番に臨むことにしました。

英検 1 級二次試験では、まず 2 分間のプレゼンテーションを行い、その内容について 4 分間の質疑応答があります。プレゼンでは 5 つのテーマが書かれたカードを見て、そのうち 1 つを選んで話します。準備の際、私は下記の頻出ジャンルを想定しました。

- ① 科学：AI、宇宙開発
- ② 地球環境保護：エネルギー（原発等）・資源、地球温暖化対策
- ③ 教育
- ④ 国際問題：グローバル化、先進国による他国への援助
- ⑤ 社会問題：終身雇用、女性の社会進出、少子高齢化
- ⑥ 青少年：スマートフォン依存、ゲームの是非、いじめ
- ⑦ 経済社会：企業倫理、エシカルファッション
- ⑧ 戦争と平和
- ⑨ 世界遺産、美術品の保存

2 分間スピーチは 200 語前後と思います。上記の①～⑤、なかでも①と③は、自分には話しやすい題でした。一応①～⑤については AI で添削しつつ原稿を作りましたが、暗記はできませんでした。プレゼンでは自分の主張を支える理由を 2 点述べますが、結局、2 分以内に収める練習をしないまま試験日を迎えました。⑥～⑨の準備は断念しました。

試験会場の部屋には、英語圏出身らしき外国人男性と日本人女性の面接委員、タイムキーパーの方がいました。受検は到着順で、会場に 30 分早く着いた私は、5 室程あった部屋のうちの 1 室で一番に受検することになりました。卓上の問題用紙には、自分が話しやすいテーマが 1 つ目に付きました。確か「オンライン授業は今後の教育現場で更に発展するか否か(か有益となるか否か)」といったテーマでした。話す内容は思い浮かびましたが、2 分で終わる練習をしていなかったため、2 つ目の理由を述べ始めたところで時間切れになってしまいました。しかしその後の質疑応答で、男性の面接委員がその続きを尋ねて下さり、最後まで話すことができました。

質疑応答では、オンライン授業の是非を単純に断定するのではなく、物事には常に表裏があり、両極端の間で中庸のバランスを取ることが大切、という古典以来の思想を軸に話しました。オンライン授業の長所と短所の両方を挙げ、自身の教育者としての体験も交えて説明しました。また、女性の面接委員からは、オンライン授業での評価法について質問されましたが、これも自分が授業で行っている方法を答えられました。準備段階では①～⑤の題について覚えようとしたパラグラフは面接の場では思い出せず、仮に思い出せたとしても出された題にはそのまま使えそうにありませんでした。しかし短いフレーズなら使うことができました。

二次試験の題は一次試験のライティングよりは一步深いようでした（例：「企業は倫理的であるべきか」が、「企業は倫理的でありながら利益を上げられるか？」となるなど）。従って、暗記して臨むにしても、パラグラフ単位では覚える必要はなさそうでした。また、頻出テーマについて3題位は言えるようになった上で、自分の得意分野についても内容を整理しておけば運次第で乗り切れそうでした。結果、新職場の着任日の直前に、準一級から一級に上げられました。以上、中高年になってからの英検受検記ですが、面接での内容は自身のオンライン含英語指導経験のバックグラウンドが無いと語れないものでした。

.....

## 5. 編集後記

今号より、前編集委員長・杉村寛子先生が始められた『巻頭リレーエッセイ』を引き継ぐ形で再スタートいたしました。併せて、会員同士が互いの活動を知り、つながりを深める場として『会員エッセイ』欄を新設いたしました。教育現場のレポートや研究の取り組みなど、さまざまなテーマでのご寄稿をお待ちしております。

ご寄稿いただける方は、メールにて三田（<hiromisanda@hotmail.com>）までお知らせください。

.....

## 6. 2026 年度新刊テキスト、及び商品紹介（賛助会員 50 音順）

# 2026 年度 新刊案内



Rima Uruguchi Yukiko Takeoka Tom Dillon

## WORLD TRAVELERS

A Learning Journey with Videos from BBC's *The Travel Show*



¥3,300 (税込 ¥3,630)

B5 128 pp. 全 14 章

978-4-7647-4243-7

## WORLD TRAVELERS

—A Learning Journey with Videos from BBC's *The Travel Show*

「ザ・トラベル・ショー」で巡る世界の文化と社会課題

浦口理麻・武岡由樹子・Tom Dillon 編著

BBC の人気旅行番組と広大な世界を旅する！

「イタリアの『死にゆく街』」「コンゴのおしゃれ集団サプール」等、臨場感ある美しい映像で世界の文化や各国が抱える課題とその取り組みを学びます。映像の理解を助けるリーディング、日本語のコラム、学生が能動的に取り組める発信の活動を用意しました。教授用資料には復習用の小テスト付き。

## SUCCESS ROADMAP TO THE TOEIC® L&R TEST

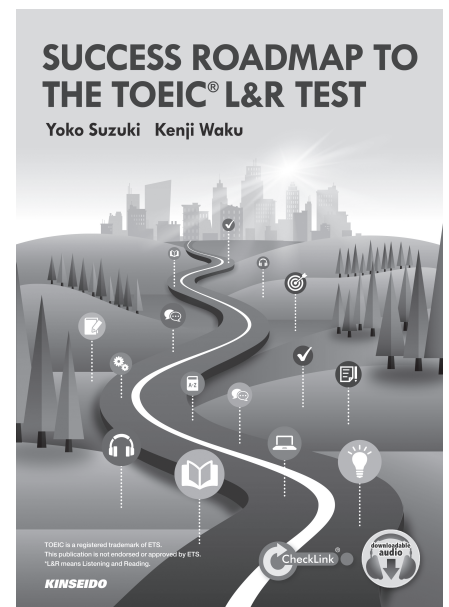
キャリアを拓く TOEIC L&R テスト全パート演習

鈴木瑛子・和久健司 著

TOEIC テスト対策で手に入れる

実践的な英語力と未来のキャリア展望！

1Unit で全パート網羅する構成。各 Unit で扱う「職種」に関連する頻出語彙や表現を繰り返し学び、ユニークな練習問題で TOEIC の出題傾向を理解しスコアアップにつなげます。教授用資料には小テストや模擬テスト等が充実。授業用 PPT も用意。



¥2,500 (税込 ¥2,750)

B5 160pp. 全 15 章

978-4-7647-4250-5



株式会社 金星堂

東京都千代田区神田神保町 3-21 (〒101-0051)

Tel 03-3263-3828 / FAX 03-3263-0716

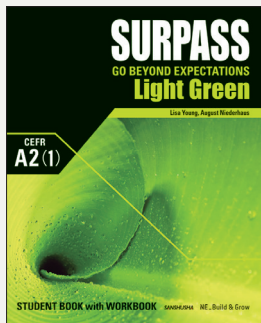
e-mail text@kinsei-do.co.jp

http://www.kinsei-do.co.jp

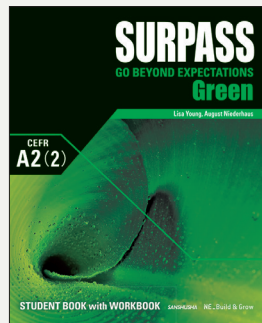


# 三修社 2026 年度新刊英語テキスト

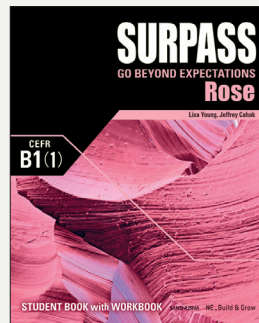
弊社 HP で内容見本や音声サンプルをご確認いただけます



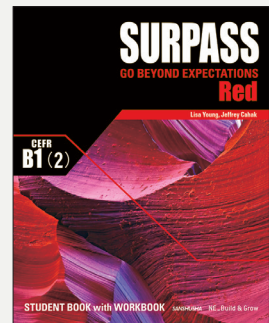
サーパス・ライトグリーン



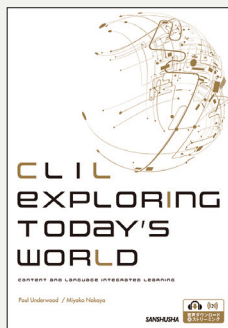
サーパス・グリーン



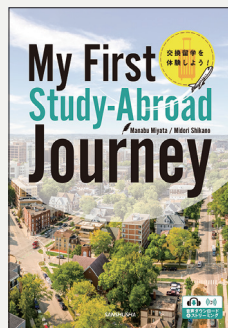
サーパス・ローズ



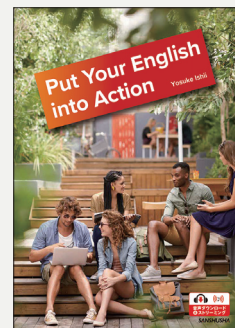
サーパス・レッド



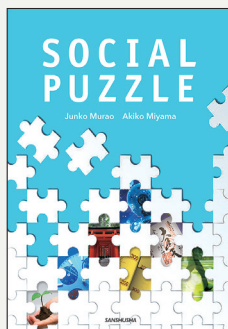
CLIL 英語で考える世界の今



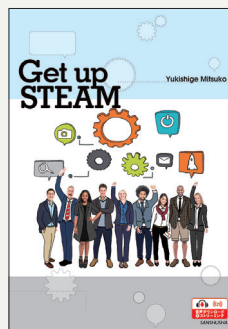
交換留学を体験しよう!



社会とつながる実践英語



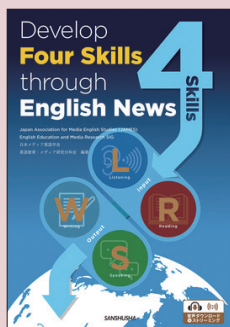
ソーシャル・パズル  
メディア英語で社会の断片をつなぐ



総合英語: 科学・文化・テクノロジー  
の世界

〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前 2-2-22  
TEL 03-3405-4511  
text@sanshusha.co.jp

**SANSHUSHA**



## ニュース英語で4技能を鍛える

日本メディア英語学会 英語教育・メディア研究分科会 編著

好評テキスト

- ・英語ニュースを通して情報をインプット、アウトプットへの展開を目指した総合教材。
- ・ニュース記事の語彙レベルは、4000語でのカバー率60%以上(平均67.4%)、CEFR B2でのカバー率69%以上(平均75.9%)。
- ・科学や環境など幅広いジャンル選定。5W1Hの質問からYes/Noとその理由までアウトプットできるよう展開。

B5判・104頁(全14課) 定価1,980円

# SEIBIDO 2026 NEW TITLES

## Live Horizons Book 1 [Student's Book]

コースブック・総合教材

角山照彦 Live ABC 共著 ●定価 2,970 円(税込)



## Live Horizons Book 1 [Workbook]

コースブック・副教材

角山照彦 Live ABC 共著 ●定価 550 円(税込)

## Live Horizons Book 2 [Student's Book]

コースブック・総合教材

角山照彦 Live ABC 共著 ●定価 2,970 円(税込)



## Live Horizons Book 2 [Workbook]

コースブック・副教材

角山照彦 Live ABC 共著 ●定価 550 円(税込)

## Generate English!

-Using Supportive AI for Active Learners-

AI・ライティング・スピーキング

AI と取り組むライティング&スピーキング

金丸敏幸 吉塚 弘 共著 ●定価 2,750 円(税込)

## College English Reboot: Basic Skills for Communication

大学生のための英語基礎カトレーニング 総合教材・リメディアル

角山照彦 Timothy F. Hawthorne 共著 ●定価 2,640 円(税込)



## Daily English for College Students Book 2

総合教材・コミュニケーション

〈場面・機能別〉大学生のための英語 Book 2

中西のりこ 平井 愛 Mary Ellis Jane Setter 共著 ●定価 2,310 円(税込)

## Science Spark

総合教材・科学

科学のひらめき

David Rear 著 ●定価 2,310 円(税込)

## Changing Times, Changing Worlds 2

やさしく読める社会事情 2

総合教材・社会事情

Joan McConnell 山内 圭 共著 ●定価 2,090 円(税込)

## CLIL: Discuss the Changing World 3

CLIL: 英語で考える現代社会 3

総合教材・CLIL・社会問題・ディベート・ディスカッション・社会問題

仲谷 都 油木田美由紀 山崎 勝 Bill Benfield 共著 ●定価 2,750 円(税込)

## GETTING THE EDGE FOR THE TOEIC® L&R TEST

TOEIC® L&R TEST 総合対策

語彙で高める TOEIC® L&R TEST スコアアップ 600 点



松本恵美子 浜田英夫 Sam Little 穂 寛美 福井美奈子 共著

●定価 2,530 円(税別)

## Write to Connect: English for Real-Life Communication

総合教材・ライティング

場面と機能から学ぶ英語ライティング

月足亜由美 梅原大輔 Chhayankdhar Singh Rathore 共著 ●定価 2,310 円(税別)

## Exploring World Heritage Online

映像でめぐる世界遺産

オンライン映像教材・世界遺産

塚野壽一 Robert Van Benthuyssen 共著 ●定価 2,750 円(税込)

## AFP World News Report 8

AFPニュースで見る世界 8 オンライン映像教材・ニュース



宍戸 真 Kevin Murphy 高橋真理子 共著 ●定価 2,970 円(税込)

## Meet the World 2026 -English through Newspapers-

メディアで学ぶ日本と世界 2026

総合教材・時事英語

若有保彦 編著 ●定価 2,420 円(税込)

## Grand Tour - Future Paths

新たな時代への飛翔

リーディング・社会問題

Anthony Sellick James Bury 堀内香織 共著 ●定価 2,310 円(税込)

## Taking with Your Patients in English 2

アニメで学ぶ看護英語 2

オンライン映像教材・看護

平野美津子 Christine D. Kuramoto 落合亮太 共著 ●定価 2,860 円(税込)

お問い合わせは

株式会社 成美堂

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22

TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490

URL <https://www.seibido.co.jp> e-mail: [seibido@seibido.co.jp](mailto:seibido@seibido.co.jp)

●見本テキストをお送り申し上げます。電話、メール、弊社のホームページ等からお申込みください。

# CaLabo<sup>®</sup> MX

授業運営に必要な機能と、先生にやさしい操作性で  
PC学習も、スマホ学習も一元管理。

## 語学4技能学習に特化した クラウド型のMALLシステム

語学4技能の  
学習支援

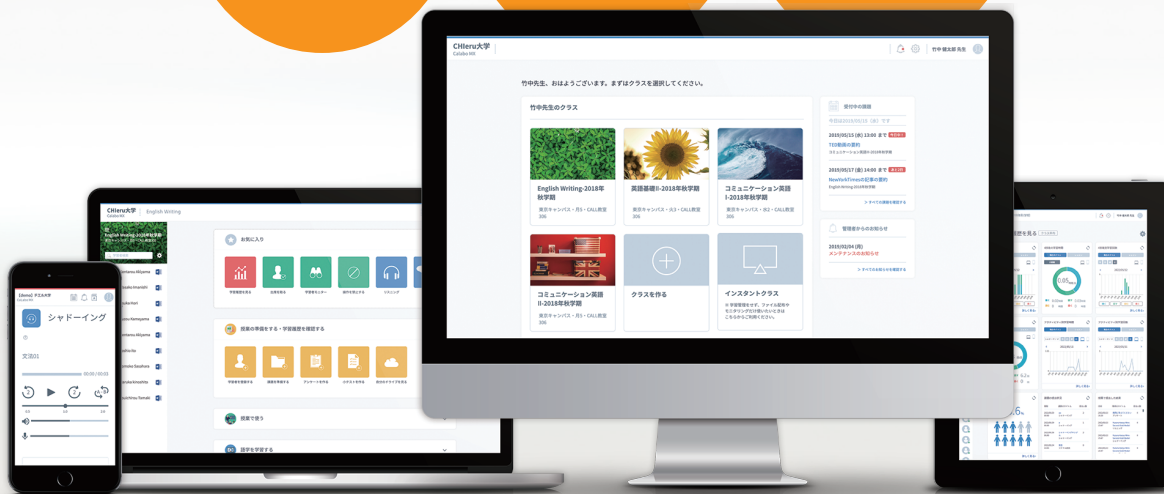
4技能に対応した  
学習支援機能が充実。

導入コスト  
運用負荷の低減

導入コスト・運用負荷を  
抑えます。

学習履歴を  
一元管理

PCもスマホも！  
学習した内容を一元管理。



MALLとは、“Mobile Assisted Language Learning”の略。ノートPCやスマホなど可搬性のあるモバイル端末を利用した語学学習を指します。

### 語学4技能の学習に対応した豊富なアクティビティ

AIを活用した  
機能も搭載!

### 学習履歴を一元管理



音声速度や音量の調整、A-Bリピート  
などリスニングに便利な機能を搭載。

- リスニング
- シャドーイング
- ディクテーション
- 部分ディクテーション



シャドーイングや読み上げ音声録音など。  
音声認識により、一部のアクティビティで  
自動採点を実現。

- シャドーイング
- レコーディング
- 発音矯正\*



\*ライセンスの形態により、  
ご利用できない場合があります。



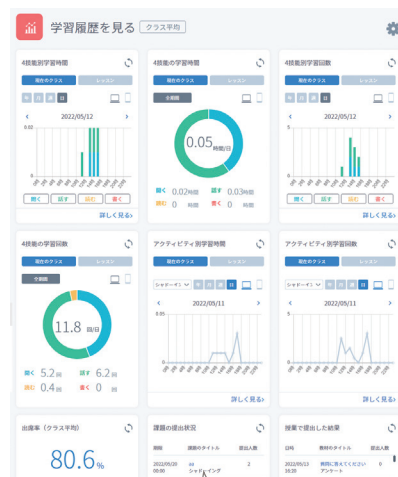
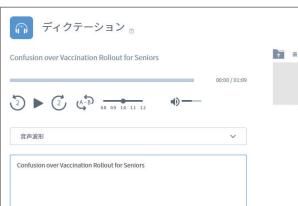
リーディングの補助として、単語の早引  
きや「My単語帳」への登録、習得済み単語  
の色分けが可能。

- リーディング
- 英文要約
- 語彙クイズ



ディクテーションでは聞き取った英文を  
書き取り、その内容の自動採点を実現。

- ディクテーション
- 部分ディクテーション
- 英文スクリプト要約



4技能別、学習者別、  
クラス全体の集約など細かい単位で  
履歴を参照可能です。





アジアの“本当の今”をお伝えする、  
日本経済新聞社の英文メディア「Nikkei Asia」  
ニュースを通じて学生様の好奇心を刺激し、  
グローバルな視点を養うお手伝いをいたします

世界のトップ30大学のうち8校が、  
アジアでも特に複雑な国々の政治や政策に関するインサイトを活用しています

出典：QS World University Rankings 2026

詳しくはこちら



お問合せ：

日経メディアマーケティンググローバル事業室 Nikkei Asia 担当  
nikkeiasia@nikkeimm.co.jp

日本メディア英語学会会報

2026年5月号（通巻 151号）

発行：一般社団法人日本メディア英語学会

〒718-8585 岡山県新見市西方 1263-2 新見公立大学健康科学部内 山内 圭 研究室気付

TEL: 0867-72-0634（代表）

URL: <http://james.or.jp>

Email: [office@james.or.jp](mailto:office@james.or.jp)

発行人：山内 圭

編集人：三田 弘美